

できることから始める。
誰でも
変わりたいと
思った時がチャンス。

原 富士子 さん

Fujiko Hara Salon de Fujiko(サロン・ド・フジコ)代表

Profile

北九州市戸畑区出身。西南女学院中学・高校・短期大学を卒業後、証券会社や銀行と、金融関係の仕事に従事。OL時代に出会ったエステの先生に指導を請い、その後開業。マンションの一室から始め、3年前路面店に移転オープン。人気の「小顔メイキング」はじめ、現在は疲れた女性を優しく癒し、美しくする日々。その他、小倉北区清水にある「喫茶アンティ」でのリンパセミナーなどサロンワーク以外でも精力的に活動する。



受ける側から、施す側へ

あるテレビのアラフォー対象の街頭インタビュー。「毎日勝負下着を着けます」と答えた女性がいた。「テレビではあの部分だけが放送されちゃったけど、本当に言いたかったのは、生き方も一緒ということ。毎日がチャンスだから、それを逃さないように心の余裕を持っていたいってことだったの(笑)」と話してくれた。そんな前向きで可愛気のある女性、それが「サロン・ド・フジコ」オーナー、原さんだ。

サロンは、現在小倉北区中島にある。独立のきっかけは、自らのOL時代の経験からだ。証券会社、銀行でバリバリ働き、多忙な毎日を通り、精神も肌もボロボロな時期、救いを求めていったエステで、肌をみるみるきれいになったという。「本当にうれしかったですね。手をかけた分だけ、身体は応えてくれる。この喜びをみんなにも味わってもらいたいと思うようになり、開業しました」。マンションの一室ではじめた念願のサロン。今から約8年前だった。

しないで後悔するより、
やっつて後悔したい

「起業当初、お客様が少なく時間が空くこともありましたが、でも、その時間は与えられたチャンスだと思っただけです。待つことは、動くための準備をする期間。時は来る、その時流されないためのロングバケーションも大切な期間と、リンパセラピー・メイクなど、仕事につながる技術を勉強。二つ行動を起こしていれば、10回で10マス進めるけど、全然何も起こしていないと、 10×10 はいつまで経っても0。自分で進んでいかないとね」。そのポジティブな思考と持ち前の行動力こそ、彼女の魅力だ。OL時代にもフラワーアレンジメント、ラッピング、粘土細工など、興味の赴くままにいろんなことを学んだ。それが今、技術はもろろん、きれいに生けられている花や装飾など、いろんな場面で生かされている。

一人でも多くの女性を
キレイに

「サロン・ド・フジコ」の看板メニューは通称「小顔メイキング」。リンパの重要なツボを刺激し、流れに沿って老廃物を押し出すことにより、肌のたるみやくすみを解消するデコルテマッサージュだ。しかし、忙しい日々に戻れば体はまた疲労をためてしまう。そこで、「生付き合う身体を大切に、興味を持ってほしい」と、家で実践できるその人にあったケアの方法も伝授。本当

の健康は、継続が大切だからだ。仕事に家庭に頑張る女性が多い今、ストレスを抱える人も多い。少しでも、心と身体のバランスを保てるお手伝いがしたい。「肩こりや頭痛が軽くなったり、フェイシャルメニューで顔色が明るくなると、自分自身に自信が持てる。周りの人にも優しくなれるでしょ」と、原さん。結婚式の忙しい花嫁や不妊治療中の女性から、ストレスが楽になったという朗報も多い。「北九州の女性が一人でも心も身体もキレイになることが、私の究極の願い」。開業時の想いは今、彼女の原動力となっている。

いくつになっても
挑戦できる

フィットセラピーや四柱推命を学び、資格も取得した原さん。「勉強を始めたのも、一人ひとりに合った施術を模索していたから。エステは身体の一部をさけだし委ねるという場所柄か、悩み事を打ち明けていただくことも多くて。お客様から『ありがとう、また来ますね』と言ってもらえるのが、最高の喜びなんです」と顔をほころばせる。「私の年齢になっても、やりたいことはたくさん。できることから始めればいいんです」

小さな幸せを感じられる心の余裕を持って、感謝を忘れずに。時に自分への充電もしながら、ゲストのニーズに応え続ける。「勉強は一生」という原さんの心に秘めた夢を実現する日は、決して遠くないはずだ。

前進する女たち

アヴァンティ

avanti woman

ウーマン

Vol.15